石西通信

練馬区立石神井西小学校
学校通信　２月号
令和４年１月３１日発行

書きぞめ展で友達の良いところをたくさん探す子供たち

春はもうすぐ

副校長　内田　久仁重

春は名のみの風の寒さや
谷の鶯歌は思えど
時にあらずと声も立てず
時にあらずと声も立てず

「早春賦」　作詞：吉丸一昌

毎年この時期になると、この歌が口をついて出てきます。ここでいう「春」とは、立春を過ぎた暦の上での「春」のこと、つまり、二月四日頃のことです。ちょうど今頃のことですね。暖かい地方ではそろそろ梅の便りも聞かれ始めるころです。

思えば一か月半ほど前の冬至は、一年で一番日が短い日でした。あの頃は家路につく時間帯は暗くて寒くて、涙が出てきそうになりながら歩いていた方も多いのではないでしょうか。冬至を過ぎれば少しずつですが日が長くなっていき、「ああ、昨日より少し日の出が早くなった。」「夕方の明るさが違ってきたな。」などと大げさに感じていたものでした。

しかしながら、日が長くなってきたとはいえ、まだまだ寒い二月。先日は一年生が、『学校で氷がはるか？』の実験をしていました。水を入れたバケツをどこに置いたら氷がはるかを考え、一昼夜放置して氷がはるかどうかを検証していました。校内の様々なところにバケツを置いたのですが、こふじさん近くの遊具のそばに置いたバケツには厚さ一センチメートルほどの氷がはっており、子供たちは大喜びだったそうです。

さて、今学校では今年度の教育活動を振り返り、来年度の教育活動の計画を立てているところです。令和二年度も三年度も、新型コロナウイルスのために、様々な教育活動に制限が加えられました。来年度も計画したことが本当に実施できるのか、今年度のように計画の中止や変更が頻発するのかわかりませんが、以前のようにできることを強く念じつつ、計画を立てています。

このコロナ禍を好機ととらえ、子どもたちのために本当に有意義な活動とは何かを洗い出し、贅肉をそぎ落として活動の変更を行っていきます。

昨年夏の東京オリンピック・パラリンピックから半年、二月四日からは冬季オリンピックが開催されます。北京オリンピックのころにはコロナも収束し、安心して開催できるのではないか、と漠然と考えていたのですが、まさか、このような事態になるとは驚きです。新種の株の出現で、収束がいつになるのか、予想もつかないこの頃ですが、私たちは自分たちのできることをしっかりと行い、感染防止に努めていきたいと思います。学校での子供たちは、給食時の準備から片付けまでの無言を守り、手洗いや消毒をこまめに行い、マスクをしっかり着けるなど本当によく頑張っています。そんな子供たちのために、明るい春はもうそこまで来ていると信じています。